

令和7年度 第2回用瀬地域振興未来会議 議事概要

【開催日時】

令和7年6月30日（月）午前10時00分～12時00分

【開催場所】

用瀬町総合支所 3階第1会議室

【参加者】

出席委員 西川功美、山下和彦、寺崎健一、西尾とよ子、岸森孝弘、入江真知子
西村勝、石井 敏、松本豪平、田中聡
以上10名（敬称略）

関係課 政策企画課 地方創生推進室（西田室長、遠藤室長補佐）
資産活用推進課（福井課長、長谷係長）
都市企画課（三谷主査、竹内技師）

事務局 太田用瀬町総合支所長、岡本副支所長、浜部産業建設課長 安田市民福祉課長
遠藤地域振興課課長補佐

傍聴者 2名

【次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議題・報告事項等
 - (1) 第12次鳥取市総合計画及び第3期鳥取市創生総合戦略（鳥取市地方創生アクションプラン）の策定について（地方創生推進室）…資料1
 - (2) 公共施設を考える住民ワークショップの開催について（資産活用推進課）…資料2
 - (3) 景観計画改定に伴う用瀬町の重点区域検討について（都市企画課）…資料3
 - (4) 地域振興未来会議の今後の進め方について…資料4
 - (5) 用瀬町内視察（案）について
 - (6) その他
- 4 各課事務連絡
- 5 次回日程
- 6 閉会

3 議題・報告事項等

- (1) 第12次鳥取市総合計画及び第3期鳥取市創生総合戦略（鳥取市地方創生アクションプラン）の策定について（地方創生推進室）
資料1により説明。

（委員）

鳥取県の中で、人口があまり減少していない地域はあるか。

(委員)

東部はどこも減っているが、鳥取県内では日吉津村が増えている。

(委員)

日吉津村が伸びている理由は何か。

(地方創生推進室)

米子市のベッドタウンでもあり、大規模商業施設があるなど生活をする上での環境が整っているためと考えます。

(委員)

鳥取市でもそういった商業施設を何か取り入れていこうとする話はないか。

(地方創生推進室)

具体的な話はありませんが、鳥取市は中心市街地、中山間地域を含む大きな市であり、さまざまな政策を打っていかないと施設建設だけでは人口減少は止められないと思っています。

特に、中山間地域と中心市街地をどう連携させるかが重要です。中山間地域の住民サービスを維持しつつ、そこに住み続けてもらえるような取組をしていかなければ、人口減少はさらに加速すると考えています。

そのため、次期の総合計画では31の基本政策を掲げ、あらゆる角度から人口減少対策を進めていこうと検討しています。各政策にどのような具体的な取り組みを盛り込むかについては、関係部署と話し合い、検討を進めているところです。

(委員)

人口が減っていくのは他の諸外国を見ても避けられない。そうになると、当然ながら行政の財源も減っていく。今のまま、目の前の課題解決に予算を配分していくだけでは、いずれ首が回らなくなる状態に陥るのではないか。また、若い世代が子どもを産み育てたいと思っても、それができない背景には経済的な問題があるのではないか。だからこそ、いかに経済力を高めるかが非常に重要。

具体的な打開策として、インバウンド（外国人観光客の誘致）や外国人労働者の積極的な採用など、豊富なお客から引っ張ってくるような積極的な政策は、行政として取り組むのが難しいことでしょうか。

(地方創生推進室)

インバウンドの推進：2025年大阪・関西万博を機に、訪日外国人観光客を鳥取へ呼び込むことに力を入れています。近隣の日本遺産も活用し、因幡・但馬地域全体での誘客を進め、海外への観光情報発信も強化しています。

外国人労働者の受け入れ：市内に日本語学校が作られており、ベトナムを中心とした外国人労働者に地元の企業で働いていただくという取組も行っています。

企業誘致による雇用創出：市外・県外からの資本を取り入れていくため、南部地域では河原町にある山手・布袋工業団地などで製造業を中心とした企業誘致を進め、若年層の雇用機

会の確保に努めています。

行政の効率化とサービス維持： 将来的な人口減少と税収減を見据え、職員数を減らしながらもサービスの質を落とさないよう、デジタル化などを活用した効率化を進めています。

公共施設の最適化： 人口減少を前提として、公共施設の縮小を進めつつ、市民に必要な機能は維持していく方針で、各部署で検討を進めています。

(委員)

昔から鳥取市のアクセスは大きな課題。公共施設の縮小が進む中で、アクセスの改善がなければ市への来訪者はさらに減ってしまう。

海外では、6時間や8時間といった長時間の国内移動を含むツアーが一般的であることから、鳥取市も国内外に向けて情報発信を強化し、空の便を含めた交通アクセスを改善する必要がある。

オール鳥取市ということで考えれば、特に鳥取市南部地域のアクセス改善を強く要望したい。鳥取砂丘周辺はインバウンドで賑わっているものの、南部地域へは足を運ぼうと思っても交通手段が乏しいという点について、メスを入れていただきたい。

(地方創生推進室)

鳥取市は鳥取自動車道の開通によって関西方面からのアクセスは大幅に改善されました。しかし、あらゆる方面からのアクセスを考えると、現状の公共交通ネットワークはまだ十分に充実しているとは言えません。住民の生活交通も含む鳥取市の交通環境は、引き続き課題であると認識しています。

今後は、観光客が市内の各所をスムーズに周遊できるよう、効果的な観光ルートと交通網の改善に取り組んでいきたいと考えています。

(委員)

鳥取県は、生まれる人より亡くなる人の方が多い、自然減で人口が減っているのが大きな原因だ。以前、鳥取道の工事中に用瀬では工事関連で一時的に人口の減少が緩やかになったが、工事が終わるとすぐにどんと人が減ってしまった。これは、一時的な公共事業だけでは人口増加は続かないことを示している。

今後は大きな公共事業は期待できないかもしれないが、熊本のようにIT企業や半導体工場といった大きな企業を誘致することで、そこに新しい町ができ、人口が増えた例がある。実現は難しいかもしれないが、このような企業誘致は、特に子育て世代の若い人たちの定住を促し、自然な人口増加に繋がる可能性がある。

また、西粟倉や奈義のように、子育て世代が多く集まっている成功事例がある。これらの事例を参考に、鳥取市でも子育て世代にとって魅力的な政策を検討し、人が増えるような取組を進めていくべきではないだろうか。

(地方創生推進室)

本市も子育て施策の充実を図っているところです。引き続きこれらの取組を充実させ、若い世代の方々にも住みやすい環境を整えていきたいと考えています。

また、移住施策にも力を入れており、若い世代や子育て世代の移住者も増加傾向にあります。

す。今後も、これらの施策を継続して推進していきます。

(委員)

ある住宅設備機器メーカーのショールームが米子に集約され、鳥取市内から無くなってしまふと聞いた。商業機能が鳥取県西部に移動している傾向があると感じる。

鳥取市東部郊外の大型商業施設は車がなければアクセスが難しく、高齢者にとっては利用しづらい。確かに、オンラインショッピングの普及により、店舗に足を運ばなくても買い物が自由にできる時代になった。しかし、私自身はまだITに抵抗があり、オンラインでの買い物に慣れていない。また、店舗での買い物の楽しみは依然として大きいと感じている。

ファッションにお金をかける年代の人は、鳥取県内で買い物をせず、バスで神戸や大阪に出向いて最先端の流行品を購入すると言われている。現在では、ITの進化によりオンラインで国内外の商品が手に入るため、わざわざ遠方へ出かける必要がなくなっている。この点から見ても、鳥取の商業的な魅力は薄れてきていると感じる。

以前の会議で鳥取駅周辺の整備が議題に上がったが、多くの人々が集まるような魅力的な場所を創出していかなければ、鳥取市からますます人が離れてしまうのではないかと危惧している。

(委員)

アクセスについて不思議に思うのが、飛行機の東京便は6便あるが、九州へ行く福岡便が無いこと。福岡県の商圈は大きく、海外、東南アジアの人も福岡に一旦入って、そこから国内を回っていく。臨時で不定期でも何でもいいから、飛行機の福岡便を就航すべきだと思う。

(地方創生推進室)

交通担当の部署に話をしておきます。

(2) 公共施設を考える住民ワークショップの開催について (資産活用推進課)

資料2により説明

(委員)

公共施設について個人への譲渡はなしということだったが、個人とはどういうくくりか。民間企業はOKなのか。

(資産活用推進課)

個人への譲渡は、過去には地区代表者数名など個人名義で行われていた時代もありましたが、今後は法人格を有する団体へ譲渡する方針です。

例えば、何々会社のような法人格を有する団体への譲渡は、議会の承認を得られれば可能です。個人名義での登録は、無断での名義変更や相続問題が発生する可能性があるため、今後は法人格を有する団体、または「何々地区」といった団体名義での登録をお願いすることになります。

(委員)

公民館一つとっても、地域によっては地元が管理し、他の地域では行政が管理しているなど、管理主体がまちまち。このようなばらつきを統一することで、ある程度の効率化や削減が可能になると考えられる。

(資産活用推進課)

おっしゃる通り調べてみると各地域でばらつきが出ていますので、同じ並びにしていかなければいけないと思っています。

(委員)

別紙資料の施設分類について、

【施設別に検討したもの】・・赤字

【譲渡・廃止の検討】としたもの・・青字

としているが、検討の結果、赤字の施設でも廃止や譲渡となる可能性はあるのか。

また、青字に分類されている「社農産物加工施設」について、利用頻度減少が理由と思うが、必要とする住民もいる中で、市としては管理を引き継ぐ団体があれば継続されるのか、それとも全ての施設を譲渡する方針なのか。

(資産活用推進課)

今回の施設仕分けは、資産活用推進課が機械的な基準に基づいて行ったものです。

具体的には、老朽化を理由とするものが75%以上、耐用年数が50年の施設は、35年以上経過していたら検討、利用者が限定されている施設は、そちらに譲渡できないか検討などです。

これはあくまで検討の出発点であり、この仕分けで施設の方向性が決定したわけではありません。施設別に検討した結果、譲渡・廃止とされている施設でも市が管理を続ける判断となる場合もあります。

施設の具体的な方向性については、来年度以降、改めてこの会議で協議させていただくことになると思いますので、よろしくお願いします。

また、「用瀬地域のくらしと公共施設を考えるワークショップ」を、10/18(土)、11/8(土)、11/30(日)の3回開催しますので、よろしくお願いします。

(委員)

ワークショップに参加するとしても、維持管理や譲渡などの専門知識はないので、言えるとしたら住民としてそれは残して欲しい、などの意見になります。

(3) 景観計画改定に伴う用瀬町の重点区域検討について (都市企画課)

資料3により説明。

① 番の瀬戸川エリアと流しびなの館周辺を除く重点区域の候補地について、都市企画課で検討した結果については、いずれの候補地も観光資源ではあるものの、現時点で重点区域の追加は難しいと考えています。

しかしながら、候補地の④番の用瀬アルプス一帯については特徴のある景観を有していることから、建築行為などの開発を制限する重点区域の位置づけではなく、良好な景観を有する場所として、「眺望景観を保全する取組み」などとして、景観計画への位置づけを検討したいと考えています。

説明は以上ですが、①番の瀬戸川エリアと流しびなの館周辺地区について現在地域住民の方々が景観形成に関する取組みなどがされているかどうかご意見をいただきたいと思えます。

(委員)

瀬戸川エリアでは、住民が協力して清掃を行い、「梅花藻（ばいかも）」が育つ清流を守る活動の取組を進めています。

(委員)

流しびなの館周辺の千代川流域も、地元で草刈りなどやっている。

(委員)

用瀬アルプス一帯については景観確保の作業が必要と考えていくということでしょうか。

(都市企画課)

はい。景観計画の中で「眺望景観」の視点について新たな取組みとして記載をするように考えています。他支所管内でも鹿野・気高で言えば鷲峯山という山があり、それを道の駅から見たときに、眺望景観の保全を目指すべき地域といったところがあります。

視点場から山を見たときの眺望景観の保全で、用瀬も同じように用瀬アルプス一帯の視点場として用瀬インターチェンジまたはインターチェンジを降りたところの国道との合流点辺りで考えて、その山一帯の眺望景観を保全する。

その眺望景観を保全するエリアの中に何か大きな工作物計画が事業者の方でなされる場合は、その眺望景観を保全するために、例えば明るいものでなく、もう少し色合いを抑えたものにしていくといったところをお願いすることで景観を確保していく取組も考えていきます。

(委員)

用瀬アルプスの眺望が一番いいなと思うのは、古用瀬地内。三角山・おおなる山・洗足山の山々がしっかりと大きく見えるところがある。運動公園でも見える。

眺望ということであれば、あそこを推薦したいので、参考にさせていただければ。

(都市企画課)

視点場としては、不特定多数の方が多く利用される場所で考えたいが、ご意見があった場所も現地確認させていただいて、優れている視点場として位置づけることが可能であれば、そこも検討させていただきます。

では、瀬戸川流域の町内会長さんが多分集まるような場で、都市企画課から直接地元の考えをお聞かせいただく次のステップに入らせていただいてもよろしいでしょうか。

(会長)

よろしいですかね。

(都市企画課)

今回の景観計画のタイミングではなくとも、重点区域の追加は必要があれば随時改定してもいいかと考えますので、継続して地元の方にご意見を伺っていきます。

(会長)

長い目での計画をお願いします。

(都市企画課)

その他：7月12日（土）開催「鳥取市景観計画改定ワークショップ」について案内
⇒会議委員から1名参加。

(4) 地域振興未来会議の今後の進め方について（支所）

資料4により説明。

テーマを決めて、より深く検討を行っていく。

- ① 地域に根ざした特産品の開発と担い手育成確保
- ② について検討。

(委員)

空き家の有効活用についての課題が喫緊かと思います。移住定住の促進や、他のところにも広がりがあると思う。自分が住んでいる区には小学生は1人しかいないような状況。

(地域おこし協力隊塚)

現在進めている、空き家の利活用に向けての調査等について説明。

(委員)

空き家については、そこに住む人が生活できるのかということの方が基本と思う。来る魅力がなかったら、いくら住むとこがあっても誰も住まない。どう人を呼んでくるか、その人たちがここに住みたいと思ったときに、空き家というのが出てくる。

この会議では、どうしたら用瀬に人が来てくれるか、来た人がどういうふうでそこで生活できるかを僕らが作り、道を示してあげることが必要と思う。

(委員)

過去10年間、いなば用瀬宿活性化委員会で「いなば用瀬宿横丁さんぽ市」を開催してき

た。そこで何をやってきたかという、「用瀬の中で何かをやってもなんか何とかなるんじゃないか」という雰囲気作りをずっとしてきた。

例えば今、川の hotori が入っているところは僕が最初に使って、自分の商売は皮を使うのだけれど、水場が近すぎてこの環境だとストックにカビが生えてしまうので出て、その後しばらく空いていた。その時にさんぽ市を始めて、ここはきっと僕みたいな商売じゃなくて、ああいうカフェみたいなのがいいんだろうなと思って、あの建物の中に入ってもらって一緒に飲食の出店をしてもらったら、お客さんがすごくたくさん来てくれた。

それを見たら、カフェやってみようかという人が現れたり、そういうことを続けていたらコロナ前ぐらいまでは比較的僕のところにも「空き家ないの？」という話がたくさん来ていた。でも紹介できる物件がないために、すごく機運を逃したと思っている。

さきほど委員さんが言われた通りなのですが、やはり紹介する建物がないと、来たときにもどうすることもできないので、それは同時進行で行かないといけないことではないかなと思う。

(委員)

来る人がいるから、活用できる空き家は絶対必要。自分も関西から移住してきたが、その時は家に仏壇があるから触られたくないなど、最初誰も貸してくれる人がいなかった。閉鎖的な町で、人は来ないだろうと思った。河原で農業研修を受けたが、空き家も用意してくれて、いつでもウェルカムの状態で行っており、用瀬は遅れていると感じた。

住みたい人があるから、空き家対策は必要だが、そればかりではだめで同時進行すべき。

(委員)

ズバリ「これやろうや！」というのを、用瀬町民が一丸となって出来ているかということが大事なのかなと思う。「移住者を増やしましょう」というのを、町内できちんと認識した上だったら、空き家の話もどんどん進んでいくのではないかな。

私は①の課題を切望したんですけど、やはり地域経済をしっかり作らないと人も来ようと思わないし活力も生まれません。コンセプトをなしに、あれしましょうこれしましょうって言ったところで、町民に伝わりきらず単発で終わってしまう。

(会長)

皆様のご意見をいただきながら、2点目として、1つに絞るのではなくて、空き家の有効活用について当面取り組んでいくということを決定してもよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(会長)

今日具体的な意見も出てきたわけですが、これから内容について検討して協議を進めていきます。

(5) 用瀬町内視察（案）について

(事務局)

先ほど検討いただいた、「地域に根ざした特産品の開発と担い手育成確保」「空き家の有効活用」の2点について町内での視察を検討します。

時期は、7月の終わりか8月にかけて、と考えています。また日程について調整し、お知らせします。

(委員)

一つ意見です。鳥取道用瀬インター、あそこの景色がすごく良いので、ぜひ椅子を置いて欲しい。

(6) その他

(会長から報告)

トスク用瀬閉店に伴う買い物環境の確保への取組について

5月28日に地域住民の皆さまによる「買い物環境を考える会」が発足しました。今後、JAとの協議などを行っていきます。

■次回日程について ⇒ 7月下旬から8月中で日程調整。

5 各課事務連絡⇒なし

6 閉会